

# 地域道路経済戦略研究会の 今後の進め方(案)について

令和3年2月17日

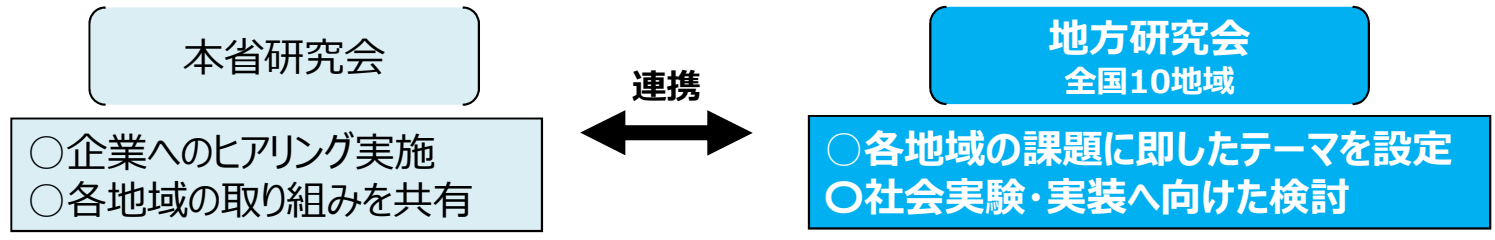
国土交通省 道路局 企画課  
道路経済調査室

## 2015.12.24 地域道路経済戦略研究会 設置

### 目的

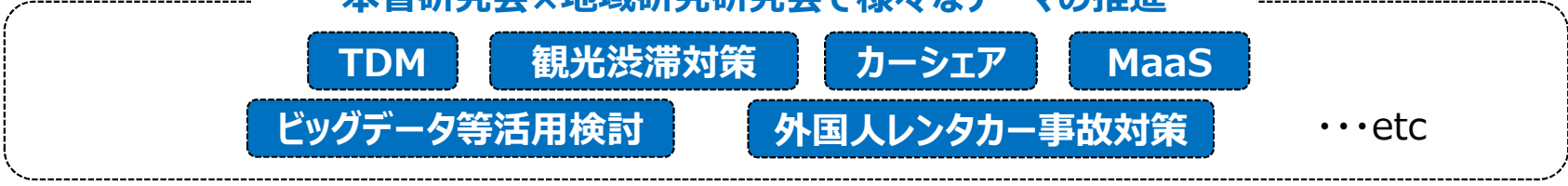
本研究会は、有識者より地域の道路を活かした政策提言を頂くとともに、**道路空間の有効活用**による地域経済活性化戦略と、これを実現するための**社会実験・実装**について研究を行うことを目的に設立するものである。(第1回本省研究会より抜粋)

### 推進体制



## 2016.3.31 『道路施策への中間提言 ～2020年に向けた新たな道路政策の挑戦と実行～』 公表

### 本省研究会×地域研究研究会で様々なテーマの推進



## 2021.2.17 ※今回 横断テーマとりまとめ

### <4つの横断テーマ>

- ①外国人レンタカーピンポイント事故対策
- ②観光、イベント時の交通マネジメント
- ③AIを活用した画像解析技術
- ④データフュージョン（ETC2.0と他のビッグデータ）

横断テーマとりまとめも踏まえつつ、テーマ・体制を継続的に見直し&好事例の実装・水平展開を図る

# R3年度以降に向けた今後の方向性

## ①横断とりまとめテーマの取扱い

### ■施策関係

- ①外国人レンタカーピンポイント事故対策
- ②観光、イベント時の交通マネジメント

### ■新技術関係

- ③AIを活用した画像解析技術
- ④データフュージョン（ETC2.0と他のビッグデータ）



実務適用に向けたツール化、ガイドライン等の作成

R2～3年度でとりまとめ終了



深化に向けた課題整理

R3年度以降のテーマに反映

## ②R3年度以降の新規テーマの設定

### 【重点項目（案）】

個々の地域情勢を踏まえ、データを活用した地域課題解決の社会実験・実装を推進すべくテーマを継続的に見直し。

特に、新技術関係の横断テーマ（AI、データフュージョン）とりまとめを踏まえた新テーマ設定やこれまで取組が少なかった分野でのテーマ設定を図る。

### 【これまで取組が少なかった分野（例）】

歩行者・自転車の交通マネジメント

例) 歩行者・自転車交通データによる道路空間整備、安全対策、ルートガイダンス

物流円滑化

例) データに基づく荷さばき対策（空間確保、空間利用マネジメント）

行政手続きデータの有効活用

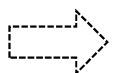
例) 占有データと事故データの融合による占有マネジメントの高度化

メンテナンス分野への交通データ連携

例) 路面性状等の把握に向けた、交通データと連携したメンテナンス戦略構築

データプラットフォーム構築

例) 現場ニーズを踏まえた地域データプラットフォームの構築



**本日の議論を踏まえ、地方研究会においてテーマの継続的見直し**

開催時期	主な議題
平成27年度<第1～4回研究会>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒアリング(第1回～3回) ビッグデータ、新モビリティ、道路空間マネジメントに関連する事業者へヒアリング</li> <li>○2020年に向けた中間提言策定・公表(第4回)</li> </ul>
平成28年度 <第5、6回研究会>	
平成29年度 <第7回研究会>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本省から報告                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人観光客レンタカー事故ピンポイント対策(第7回)</li> <li>・ICT・AIを活用したエリア観光渋滞対策(第7回)</li> <li>・地域道路経済戦略研究会の主な取組みの紹介(第8・9回)</li> <li>・ETC2.0を取り巻く現状(第11回)</li> </ul> </li> </ul>
平成30年度 <第8、9回研究会>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方研究会から報告                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年度に策定した各地方研究会テーマ内容(第5回～第11回)</li> </ul> </li> </ul>
令和元年度 <第10、11回研究会>	
令和2年度 <第12回研究会(今回)>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ・体制の見直し</li> <li>○地方研究会からの報告                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの地方研究会の検討テーマを、4つの横断テーマに整理</li> <li>・各横断テーマにて、幹事地方整備局を設定し、とりまとめを実施                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①外国人レンタカーピンポイント事故対策</li> <li>②観光、イベント時の交通マネジメント</li> <li>③AIを活用した画像解析技術</li> <li>④データフュージョン(ETC2.0と他のビッグデータ)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○全体意見交換(今後の進め方のご相談等)</li> </ul>

## 新型コロナウイルス感染症の拡大により顕在化した課題への対応

- ・道路システムのデジタル化の遅れの再認識  
道路交通データ収集・分析等に支障  
テレワーク環境から行政データ・システムへのアクセスに支障
- ・日常的な社会活動における感染症対策の必要性  
料金収受員の感染により、一部の料金所でETC専用運用を実施
- ・安定的な物流確保のための道路管理の重要性  
物流は緊急事態宣言中も活動を継続

など

## 持続可能性に係る構造的問題への対応

- ・自然災害の激甚化・頻発化や大規模地震災害の発生リスク  
大雨の回数：30年前と比べて約1.4倍(1時間降水量50mm以上の年間発生回数)  
路面冠水発生件数：約260回/年(直轄国道、H25～H30平均)
- ・老朽化の進展  
点検対象橋梁数：約6万橋(高速道路と直轄国道の合計)
- ・道路利活用における生産性向上の必要性  
特殊車両通行許可件数：直近5年間で約1.6倍  
特殊車両通行許可平均審査日数：26.1日(R2.7)
- ・国土幹線道路の役割に応じた的確な維持管理の必要性  
路面の異常・障害の発見・処理件数：約80万件/年(直轄国道、H30)  
高規格幹線道路(直轄管理)延長：今後10年で約1.2倍(見込み)

## 道路システムのDXの推進

道路利用サービスの質を高め、国民生活や経済活動の生産性を向上するため、以下の基本方針のもと、道路システムのDXを推進

### 【基本方針】

- ・道路利用の障害となる様々な事象を早期発見・早期処理
- ・施工や維持管理作業などの徹底した自動化、無人化
- ・手続きや支払いはオンライン化、キャッシュレス化・タッチレス化
- ・道路のビッグデータを収集・蓄積、フル活用し、社会に還元

連携

連携

連携

〈 i-Construction 〉

〈 関係行政機関の取組み 〉

〈 民間企業の取組み 〉

○新型コロナウイルス感染症の拡大により顕在化した行政分野のデジタル化の遅れも踏まえつつ、自然災害の激甚化・頻発化や老朽化の進展等の環境の変化に対応するため、道路システムのDXを推進

## 【取組の事例・イメージ等】

### IT・新技術の総動員による高レベル道路インフラサービスの提供

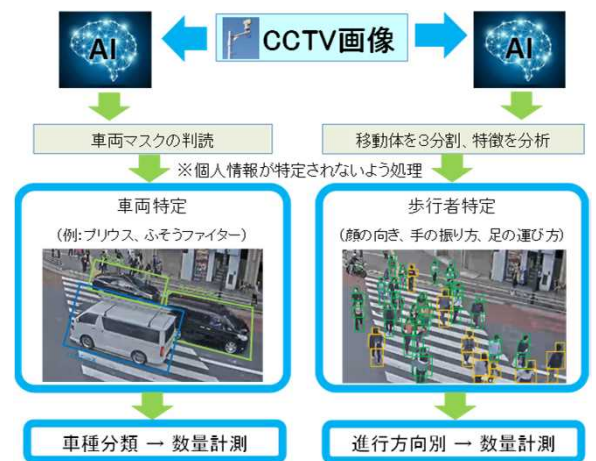


パトロール車両に搭載したカメラからのリアルタイム映像をAI技術により処理し、舗装の損傷を自動検知



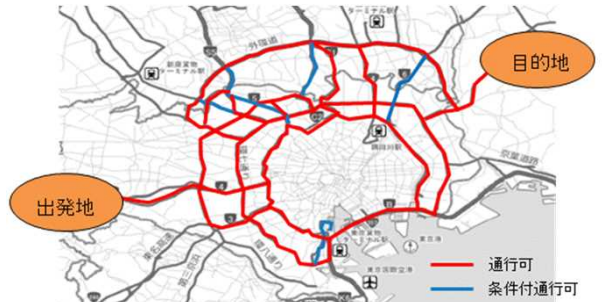
デジタルデバイスをフル活用し、AI等の新技術により点検結果を照合、老朽化の進行具合の判断、対応を迅速化  
画像：NEXCO東日本「future image 202X」

### データプラットフォームの構築・多方面への活用



カメラ画像のAI解析技術を活用し、車や人の交通量観測を効率化

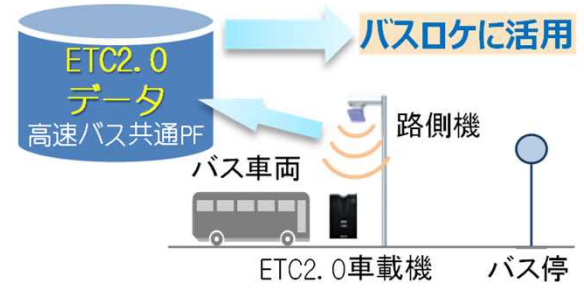
### 行政手続きのデジタル化・スマート化による生産性向上



特殊車両通行許可手続きのデジタル化を進め、即時処理を実現

### 高速道路等のキャッシュレス化・タッチレス化の早期実現

- ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化
- ETCとマイナンバーカードとの連携



データのオープン化等により、ビックデータの活用を促進